



# RITZ PARIS

リッツパリ [www.jhrca.com/worldhotel?cat42](http://www.jhrca.com/worldhotel?cat42)

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。

これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。

私のファーストアルバム「World's Leading Hotels」はお陰様で好評を頂いておりますが、写真集第2弾「World's Prestige Hotels 世界の名門ホテル」を去年6月に発刊いたしました。

独自に取材した世界各地の最高峰ホテルを華麗な写真と共に解説しております。ファーストアルバムに引き続きご愛読して頂ければ幸甚に存じます。



筆者 **小原 康裕**

ホテルジャーナリスト

慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年 Munich Re 入社。85年築地原健樹代表取締役。

2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役 CEO。

JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント協会理事。

[www.jhrca.com/worldhotel](http://www.jhrca.com/worldhotel)

現在、筆者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。

多くの美しい写真と興味深いコメントで、世界中のホテルとそれら関連都市を紹介。



ヴァンドーム広場に佇む Ritz Paris



2011年10月18日、突然リッツ パリ休業のニュースが世界に発信されホテル関係者を驚かせた。翌12年夏より2年3カ月という異例の完全休業で、“前例のない改装”が理由だった。同年5月に発表された5ツ星を超える“新たな格付け”「PALACE」の認定からリッツが漏れたことに起因する措置であった。(本誌2012年3月9日号、及び23日号のVol.19、Vol.20参照)。これまでパリには“暗黙の了解”という形で7軒の「PALACE」が存在していた。リッツ、ムーリス、クリヨン、ジョルジュサンク、プラザ・アテネ、ブリストル、そしてフォーケッツ・バリエールの7名門ホテルである。そのなかでも筆頭格を自認するリッツが、フランス観光開発機構及び観光庁の審査認定から外されたことは、オーナーであるモハメド・アルファイド氏にとって耐えがたい屈辱であったと推測される。

去年2016年6月、新生リッツ パリはヴァンドーム広場にその栄光の扉を再び開いた。大改修を開始してから実に4年の歳月が経過していた。新生リッツ パリは建物外壁も綺麗に修復され、隣接するフランス司法省の黒ずんだ外壁との対比が象徴的である。筆者にアサインされた部屋はリッツを代表する「Coco Chanel Suite」で、シャネルの写真や化粧機、シノワズリーの屏風などフェミニンな空気が流れるスイートだ。ページュを基本と室内は気品に満ち、窓からはヴァンドーム広場の壮麗な佇まいを望む。ここはシャネルの美意識が息づく特別な“家”とも言える。

新生リッツ パリで大きく変わったのは、「Ritz Club Paris」内に新設された「CHANEL au Ritz Paris」だ。シャネルとリッツの深い信頼関係により、ホテル内に誕生した世界初の美の殿堂である。エレガントなトリートメントが話題になり早くもセレブリティの注目を集めている。中庭テラスも大きく変更され、ニコラ・サル氏が率いるメインダイニング「L'Espadon」と人気のバー「Bar Vendôme」にそれぞれ開閉が出来るドーム型天井のテラス席を設けた。さらに、リッツの顔でもある麗しき中央回廊に「Salon Proust」が新設された。大作“失われた時を求めて”のマルセル・プルーストに捧げたサロン・ド・テである。

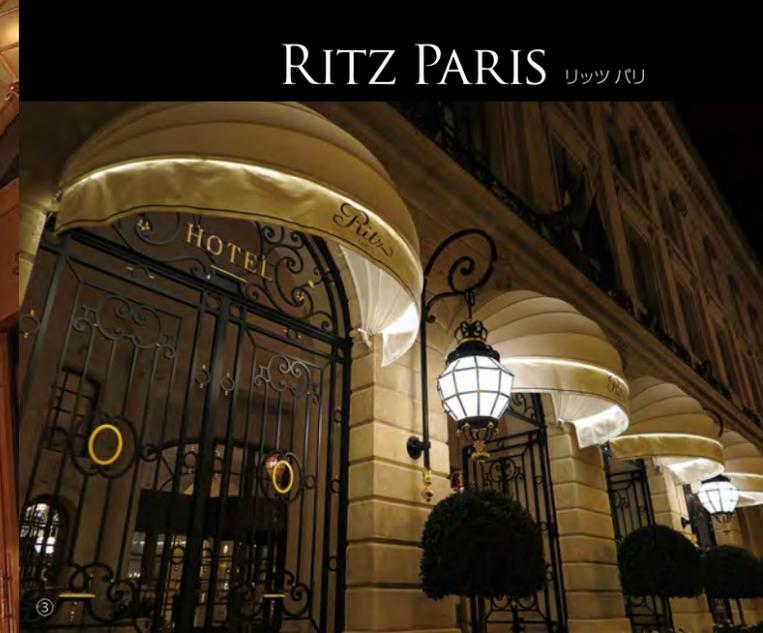
今回の改装で特筆すべきは、創業時からの歴史的遺産に敬意を払い繊細な作業が遂行された。家具や調度品は一切売りに出さず、情熱あふれる最高の職人たちにより修復がなされたことである。“世界の王族が邸宅に求める洗練と快適さを提供するホテル”。セザール・リッツが開業時に掲げたビジョンだが、1898年に創業して以来、王侯貴族や世界の著名人に愛されてきたリッツ パリ。これらのレガシーを大切に継承し、次世代に夢を届けるホテルとして華麗なる復活を成し遂げた。



①



②



③



④



⑤

- ① 他のホテルでは見られない伝統の黒い鉄扉と新調された真紅のカーペットが映える正面エントランス。中央のエンプレムも磨き上げられた
- ② リッツの顔でもある中央回廊。気品あるロイヤルブルーのカーペットが壮麗な空間を表現している
- ③ 華麗なる街路灯が灯る夜間の正面エントランス
- ④ 重厚なレセプションデスク
- ⑤ ゲストリレーション担当のP. Paoletti 氏の出迎えを受ける。背後に“CESAR RITZ 1850-1918”と記された記念プレートが掲げられている



① Ritz Paris を代表する「Coco Chanel Suite」のベッドルーム。  
ベージュを基本とした室内は気品に満ち溢れている。  
ここではシャネルの美意識が息づく特別な「家」とも言える

②化粧機やシノワズリーの屏風などフェミニンな空気を感じるスイートルーム

③ GM からの挨拶レターとウェルカムアメニティー

④窓からはヴァンドーム広場の壮麗な佇まいと中央にオベリスクを望む

⑤「Coco Chanel Suite」室内には、時代物の置時計やシャネルの思い出の写真、  
書籍が置かれている

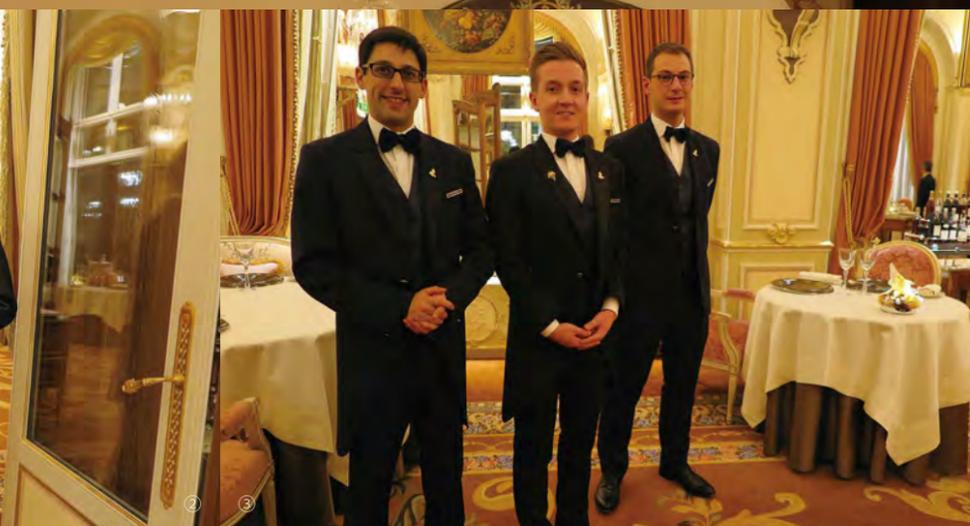
⑥新設された「CHANEL au Ritz Paris」のレセプションデスク

⑦「Ritz Club Paris」のトレーニングスタッフたち

⑧「Ritz Club Paris」のショーケース。airweave の文字も見える

⑨ゴージャスの極みを提供するスイミングプール





① ヘッドシェフのニコラ・サル氏が率いるメインダイニング「L'Espadon」の  
絢爛豪華な店内  
② エグゼクティブ・スーシェフの C. Guibert 氏の挨拶を受ける  
③ 礼装姿のレストランスタッフがゲストを迎える  
④ きびきびとしたレストランスタッフの動きに好感が持てる。  
右手はレストランマネージャーの P. Cousseau 氏  
⑤ 焼き上がったばかりのパンを提供するデモンストレーション  
⑥ 中庭テラスは大きく変更され、メインダイニング「L'Espadon」と人気のバー  
「Bar Vendôme」にそれぞれ開閉ができるドーム型天井のテラス席を設けた  
⑦ 「Bar Vendôme」の落ち着いたテーブル席  
⑧ 大作「失われた時を求めて」のマルセル・ブルーストに捧げた  
「Salon Proust」  
⑨ 大書棚を取り囲む圧巻の空間が印象的なサロン・ド・テである

